

踏まれても生きて戻る

NO.25 2025.5.6

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

com-matcham@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」

地域自主活動グループのページでも閲覧できます。ほかのグループも見てください→ <http://ow.ly/nqgc50AoMDs>

石神井川緑道の様相が変わってきた

その① ナガハグサの大群落が登場

石神井川緑道の加賀エリアでの月2回の定期的な観察記録活動をやめてから、もう2年になります。時々散歩で歩いているのですが、きちんと植物を観察して歩くことは滅多にありません。

そんなのんきな散策中に気が付いたのは、右の写真のようなイネ科の植物。イネ科は単子葉植物の中ではいちばん種数の多い植物。しかも、その花には花弁（花びら）がなく雄蕊（おしべ）と雌蕊（めしべ）が殻のような入れ物の中にしまわれている小さな穂＝小穂（しょうすい）ができるだけなので、みんな同じように見えて見分けがつけにくいのです。下段の2枚は誰でもどこでも、見たことがない人はいないスズメノカタビラの全姿（左）とその小穂なのですが、「なんだ、ただの雑草じゃないか」とあざ笑うことなかれ！これが、大型になったものにオオスズメノカタビラがあり、さらに大型のイチゴツナギはなんと2つか3つの種に分類されるので、そうなるともう素人は思考停止、植物学志向の「専門家」に任せるほかなくなってくるという複雑な存在、それがイネ科なのです。

さて、ようやく本題です。右上のイネ科の植物の小穂は少したっぷりした感じでスズメノカタビラの仲間とも違ってきます。**ナガハグサ**です。過去の石神井川緑道観察記録ではほとんど記録されなかったのですが、今年はあちこちに大群落を作っていました。



ナガハグサ



スズメノカタビラ
左が全体の姿 右は小穂



石神井川緑道の様相が変わってきた その② セリバヒエンソウを発見！

花を横から見ると燕が飛んでいるような見事な形をしているセリ科の植物ですが、もう何10年も前に赤塚公園の城址地区で見つけて、当時の「保存する会」事務局長の香取孝作さん宅に持ち込んだところ、奥様が「**セリバヒエンソウ**です」と教えてくれました（円内が赤塚公園で撮影したもの）。

きれいな野草なので大事にしていたら。サービスセンターのスタッフに「外来種だから排除したほうがよい」と助言されました。外来種だって、ここを適地を選んでくれたのだからほかの植物の生育を邪魔しない限り、あえて排除する必要はないと考えて、ずっとその姿を見守ってきました。赤塚公園でも城址地区以外では見られなかった種ですが、今年の春、石神井川緑道のサクラの老木の根元にひっそりと咲いていました。初観察！

植物の拡散は人の移動に伴うことが大。赤塚公園と石神井川緑道を往き来する人間は木村しかないのです、前ページのナガハグサとともにこの**セリバヒエンソウ**の拡繁は木村が犯人か！？



その③ スズメノエンドウが大展開！ これは区内の草原のあちこちで



正面から見ると人を食ったような顔の花は面白く、赤紫の色も美しいカラスノエンドウが、春先にあちこちで咲いていました。それと似ていますが、葉は小型、花の形はさらに小型で長さ5mmぐらい、しかも色は脱色して白くなったのが、左の**スズメノエンドウ**。

一昨年だったか、「ニリンソウを守る会」で植物に詳しいお仲間のNさんと一緒に石神井川緑道の観察をしたときに、Nさんが「これスズメノエンドウ」と指さしたのですが、その時はこんな花ではなかったので「カラスノエンドウの未熟じゃないの」としてしまいました。Nさん、ごめんなさい。今年の石神井川緑道ではこの大群落があちこちに広がっていました。

区内のほかの公園・原っぱでも「へーッ！こんなところにも…」というほどに増えているのですが、この植物の拡散「犯人」は木村じゃありませんよ～ッ！